

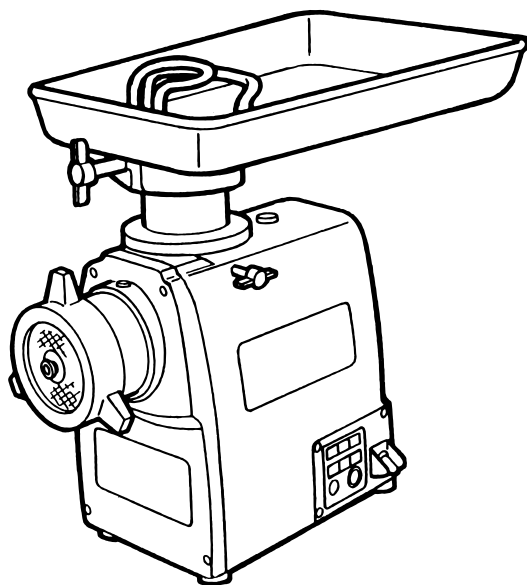
HIKOKI

ミートチョッパー

LCM 22

取扱説明書

このたびは弊社製品をお買い上げいただき、ありがとうございました。
ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり、正しく安全にお使いください。
お読みになった後は、いつでも見られる所に大切に保管してご利用ください。



本製品は日本国内用のため、日本国外で販売または使用することはできません。日本国外で使用した場合は、仕様上の性能を発揮できない恐れがあります。日本国外では、修理または保証を受けられません。

This product may be used only in Japan and should not be sold or used in any other country. Otherwise, product may not perform as intended. No authorized service or warranty is available outside of Japan.

目 次

| | ページ |
|-----------------|-----|
| 安全上のご注意 | 2 |
| ミートチョッパー使用上のご注意 | 5 |
| 各部の名称 | 7 |
| 仕 様 | 8 |
| 付 属 品 | 8 |
| 別 売 部 品 | 8 |
| 用 途 | 9 |
| 作業前の準備 | 9 |
| ご使用前に | 12 |
| 操作の手順 | 13 |
| 刃物の交換 | 15 |
| 過負荷保護装置について | 15 |
| 掃除・点検 | 16 |
| ご修理のときは | 裏表紙 |

警告、**注意**、**注** の意味について

ご使用上の注意事項は「**警告**」、「**注意**」、「**注**」に区分しており、それぞれ次の意味を表します。

警告 : 誤った取扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。

注意 : 誤った取扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。

注 : 製品のすえ付け、操作、メンテナンスに関する重要なご注意。

なお、「**注意**」に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載しているので、必ず守ってください。

安全上のご注意

- 火災、感電、けがなどの事故を未然に防ぐために、次に述べる「安全上のご注意」を必ず守ってください。
- ご使用前に、この「安全上のご注意」すべてをよくお読みの上、指示に従って正しく使用してください。
- お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

警告

- ① **作業場は、いつもきれいに保ってください。**
ちらかった場所や作業台は、事故の原因になります。
- ② **作業場の周囲状況も考慮してください。**
 - 雨の中で使用したり、湿った、または、ぬれた場所で使用しないでください。
 - 作業場は十分に明るくしてください。
 - 可燃性の液体やガスのある所で使用しないでください。
- ③ **感電に注意してください。**
 - 雨の中では使用しないでください。
 - 必ずアース（接地）してください。
- ④ **子供を近づけないでください。**
 - 作業員以外、機械やコードに触れさせないでください。
 - 作業員以外、作業場へ近づけないでください。
 - 安全に責任を負う人の監視または指示がない限り、補助を必要とする人が単独で使用しないでください。
- ⑤ **使用しない場合は、きちんと保管してください。**
乾燥した場所で、鍵のかかる所に保管してください。
- ⑥ **無理して使用しないでください。**
安全に能率よく作業するために、機械の能力に合った速さで作業してください。
- ⑦ **指定用途以外には使用しないでください。**
本取扱説明書に指定された用途以外に使用しないでください。
- ⑧ **きちんとした服装で作業してください。**
 - だぶだぶの衣服やネックレスなどの装身具は、回転部に巻き込まれる恐れがあるので、着用しないでください。
 - 屋外で作業する場合には、ゴム手袋と滑り止めの付いた履物の使用をお勧めします。
 - 長い髪は、帽子やヘアカバーなどでおおってください。

⚠警告

- ⑨ **コードを乱暴に扱わないでください。**
 - コードを持って機械を運んだり、コードを引っ張ってコンセントから抜かないでください。
 - コードを熱、油、角のところがった所に近づけないでください。
- ⑩ **防音保護具を着用してください。**

騒音の大きい作業では、耳栓、イヤマフなどの防音保護具を着用してください。
- ⑪ **無理な姿勢で作業をしないでください。**

常に足元をしっかりとさせ、バランスを保つようにしてください。
- ⑫ **機械は、注意深く手入れをしてください。**
 - 安全に能率よく作業していただくために、刃物類は常に手入れをし、よく切れる状態を保ってください。
 - 注油や付属品の交換は、取扱説明書に従ってください。
 - コードは定期的に点検し、損傷している場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。
 - 継ぎ（延長）コードを使用する場合は、定期的に点検し、損傷している場合には交換してください。
 - 握り部は、常に乾かしてきれいな状態を保ち、油やグリースが付かないようにしてください。
- ⑬ **次の場合は、機械のスイッチを切り、電源プラグを電源から抜いてください。**
 - 使用しない、または、修理する場合。
 - 刃物、トイシなどの付属品を交換する場合。
 - その他、危険が予想される場合。
- ⑭ **調節キーやスパナなどは、必ず取りはずしてください。**

電源を入れる前に、調節に用いたキーやスパナなどの工具類が取りはずしであることを確認してください。
- ⑮ **不意な始動は避けてください。**

電源プラグを電源にさし込む前に、スイッチが切れていることを確かめてください。
- ⑯ **屋外使用に合った継ぎ（延長）コードを使用してください。**

屋外での継ぎ（延長）コードを使用する場合は、キャプタイヤコードまたはキャプタイヤケーブルを使用してください。
- ⑰ **油断しないで十分注意して作業を行ってください。**
 - 機械を使用する場合は、取扱方法、作業のしかた、周りの状況など十分注意して慎重に作業してください。
 - 常識を働かせてください。
 - 疲れているときは、使用しないでください。

警告

⑱ 損傷した部品がないか点検してください。

- 使用前に、保護カバーやその他の部品に損傷がないか十分点検し、正常に作動するか、また、所定機能を発揮するか確認してください。
- 可動部分の位置調整および締付け状態、部品の破損、取付け状態、その他、運転に影響を及ぼすすべての箇所に異常がないか確認してください。
- 損傷した保護カバー、その他の部品交換や修理は、取扱説明書の指示に従ってください。

取扱説明書に指示されていない場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

- スイッチが故障した場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。
- スイッチで始動および停止操作のできない機械は、使用しないでください。

⑲ 指定の付属品やアタッチメントを使用してください。

この取扱説明書および弊社カタログに記載されている指定の付属品やアタッチメント以外のものを使用すると、事故やけがの原因になる恐れがあるので、使用しないでください。

⑳ 機械の修理は、専門店で依頼してください。

- この製品は、該当する安全規格に適合しているので改造しないでください。
- 修理は、必ずお買い求めの販売店に依頼してください。
修理の知識や技術のない方が修理すると、十分な性能を発揮しないだけでなく、事故やけがの原因になります。

ミートチョッパー使用上のご注意

先に一般的な注意事項を述べましたが、ミートチョッパーとして、さらに次に述べる注意事項を守ってください。

⚠警告

- ① **本機は、銘板に表示してある電圧で使用してください。**
表示を超える電圧で使用すると、モーターや制御装置の焼損、破損およびけがの原因になります。
(詳細は、12 ページの「1. 使用電源を確かめる」の項を参照してください。)
- ② **必ずアース (接地) してください。**
故障や漏電などのとき、感電の恐れがあります。
(詳細は、10 ページの「2. アース (接地)、漏電しや断器の確認」の項を参照してください。)
- ③ **機械の内部には絶対水をかけないでください。**
本機は防水構造ではありません。水をかけるとモーターおよびスイッチ類に水が浸入し、感電の恐れがあります。
- ④ **肉をホッパに押し込むときは、必ずツキボウを使用してください。**
肉を手などで押し込むと、内部のスクリュに巻き込まれ、けがの原因になります。
(詳細は、14 ページの「肉の挽きかた」の項を参照してください。)
- ⑤ **セフティガードは絶対に取りはずさないでください。**
セフティガードをはずしたまま作業すると、手などが内部のスクリュに巻き込まれ、けがの原因になります。
- ⑥ **運転中、本機の調子が悪かったり、異常音や異常振動がしたときは、直ちに本機の停止スイッチを押し運転を中止し、お買い求めの販売店に点検・修理を依頼してください。**
そのまま運転していると、けがの原因になります。
- ⑦ **本機は絶対冷蔵庫には入れないでください。**
絶縁不良をおこし、感電の恐れがあります。
- ⑧ **継ぎ (延長) コードを使用するときは、アース (接地) 線を備えた 4 心キャブタイヤケーブルを使用してアース (接地) 線をしてください。**
アース (接地) 線のない 3 心コードですと、感電の原因になります。

⚠注意

- ① 付属品は、取扱説明書に従って確実に取付けてください。
確実でないと、はずれたりし、けがの原因になります。
- ② 骨付き肉は挽かないでください。
骨付き肉を挽くとナイフ（図5参照）が欠けたり、モーターが過負荷になり、故障の原因になります。
- ③ 固い冷凍肉は挽かないでください。
固い冷凍肉（零下8°Cより低いもの）を挽くと、モーターが過負荷になり、故障の原因になります。
- ④ 空運転は数秒間にしてください。
プレート（図5参照）とナイフは、挽く肉の脂分が潤滑油の働きをして性能を発揮します。長く空運転するとプレートとナイフの接触面に傷がついたり、焼付けを起こす原因になります。
- ⑤ 過負荷保護装置が作動したときは、原因を取除いてから運転を再開してください。
原因を取除かないと、繰り返し過負荷保護装置が作動します。
（詳細は、15ページの「過負荷保護装置について」の項を参照してください。）
- ⑥ ワッパ（図5参照）は脂身（脂肪）を挽きながら締付けてください。
ワッパを取付けるときは、はじめ軽く締めて少量の脂身（脂肪）を挽きながらワッパを締付けてください。はじめから強く締付けるとプレートとナイフの接触面に傷がついたり、焼付けを起こす原因になります。
- ⑦ プレートとナイフは一对で使用、または交換してください。（図5参照）
プレートとナイフのどちらか片方のみ交換しますと、プレートとナイフの接触面が合わず急激な摩耗、傷発生の原因になります。
粗挽き用、仕上げ挽き用のプレートがある場合、各々のプレートとナイフを一对とし、ばらばらにならないよう管理してください。

各部の名称

LCM22

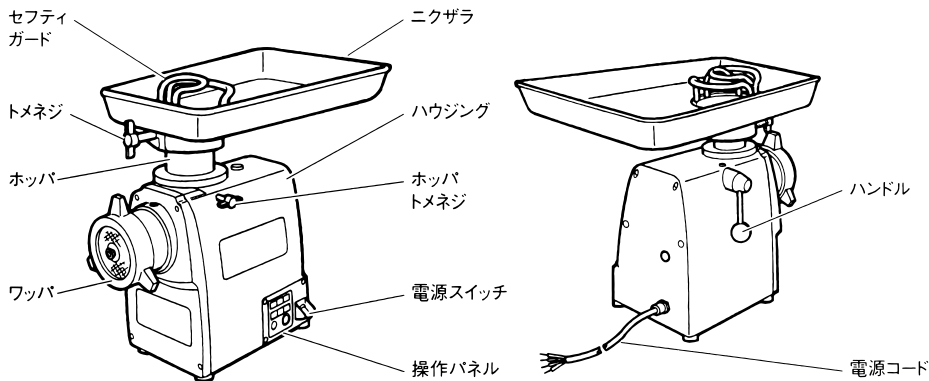


図1-イ

図1-ロ

LCM22(S) (フットスイッチ付)

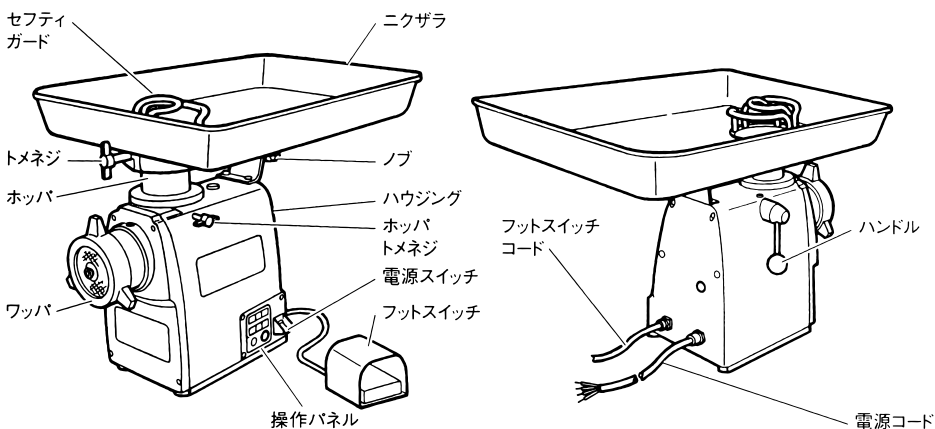


図2-イ

図2-ロ

仕 様

| | | |
|---------------|--|---------------------|
| 項目 | LCM22 | LCM22(S) (フットスイッチ付) |
| 使用電源 | 三相交流 50/60Hz共用 | 電圧 200V |
| モーター | 種類 開放形三相誘導モーター 1.1KW 4P | |
| | 定格電流 5.1A(50Hz), 4.4A(60Hz) | |
| プレート外径 | 82mm | |
| ナイフ無負荷回転数 | 180min ⁻¹ {180回/分} (50Hz), 215min ⁻¹ {215回/分} (60Hz) | |
| 処理能力 | 400kg/h{400kg/時間} | |
| 肉皿寸法(幅×長さ×高さ) | 360×480×55(mm) | 420×635×75(mm) |
| 機体寸法(幅×長さ×高さ) | 360×530×470(mm) | 420×685×490(mm) |
| 質量 | 37kg | 42kg |
| コード 電源用 | 4心キャブタイヤコード 2.5m | |
| | フットスイッチ用 | ——— 3心キャブタイヤコード 2m |

付 属 品

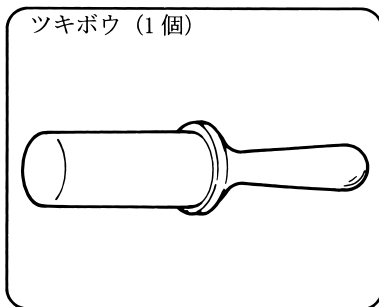


図 3

別 売 部 品

..... (別売部品は生産を打ち切る場合があります)



図 4

用 途

- 各種肉類の肉挽き作業

作業前の準備

ご使用になる前に次の準備をすませてください。

1. す え 付 け ……

⚠ 注 意

- 本機を移動する際は、必ずハウジング下面を持ってください。
ニクザラ、セフティガード、ホッパ、バレルを持ちますと、破損、変形の原因になります。

- (1) 本機は傾斜のない平らで頑丈な台の上に置いてください。
- (2) スクリュー、ナイフ、プレートの取付け

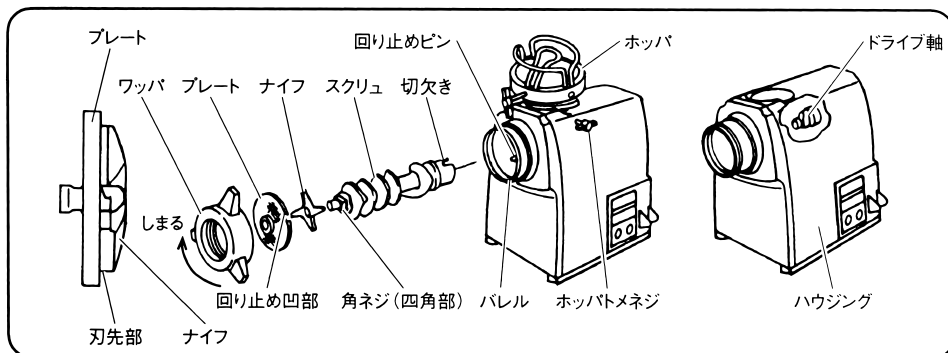


図 5

- (イ) スクリューは、バレル内を通し、ハウジング内のドライブ軸先端にスクリューの切欠きを合わせはめ込みます。
- (ロ) スクリューに取付けてある角ネジの四角部に合わせ、ナイフを取付けます。ナイフの刃先部は、プレート側に向けます。
- (ハ) プレートのつまみ部をワッパ側にして角ネジの先端に差し込みます。このときプレート外周部の回り止め凹部とバレル内側にある回り止めピンを合わせてください。
- (ニ) ワッパを手で軽く締めてください。

- 注** ● ワッパはハンマなどでたたいて強く締付けしないでください。強く締め過ぎると、ナイフとプレートの磨耗が大きくなり、発熱して肉が変質したり、プレートとナイフが異常磨耗する原因になります。

(3) ニクザラ、トメネジの取付け

⚠ 警 告

● LCM22(S) の場合

ニクザラは、必ずトメネジとノブを締付け固定してください。ノブを締めなかったりニクザラを横にして使用すると、ニクザラが破損したり、本体が転倒するおそれがあります。

- (イ) ホッパにトメネジをゆるめめに取付けます。(図6-イ、ロ参照)
- (ロ) ニクザラのフック部をピンに合わせ差し込み、フック部がピンに引っ掛かるまでニクザラを矢印方向にまわし、トメネジを締め込み固定します。(図6-イ参照)
- (ハ) LCM22(S)の場合、トメネジを締め込む前に、ホルダにニクザラのストッパが突き当たるまでニクザラを矢印方向にまわしてからノブとトメネジを締め込み固定します。(図6-ロ参照)

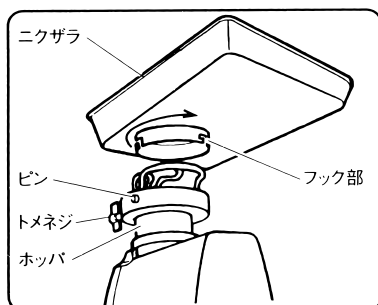


図6-イ

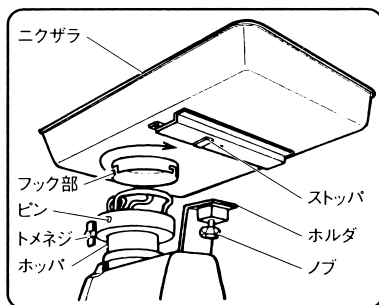


図6-ロ

2. アース（接地）、漏電しゃ断器の確認 ……

ご使用にさきだち、本機が接続される電源に労働安全衛生規則や電気設備の技術基準などに規定された感電防止用漏電しゃ断装置（以下、漏電しゃ断器と言います。）が設置されているか確認してください。

また、本機は必ずアース（接地）してください。定格感度電流 30mA 以下、動作時間 0.1秒以下の電流動作型の漏電しゃ断器の設置されている電源でお使いになる場合でも、より安全のためにアース（接地）されることをおすすめします。

地中にアース極（アース棒、アース板）を埋めアース（接地）線を接続するなどの接地工事は、電気工事士の資格が必要ですので、お近くの電気工事店にご相談ください。

漏電しゃ断器やアース（接地）については、次の法規がありますので、ご参照ください。

労働安全衛生規則（第 333 条 漏電による感電の防止、第 334 条 適用除外）

電気設備の技術基準（第 19 条 接地工事の種類、第 29 条 機械器具の鉄台および外箱の接地、第 40 条 地絡しゃ断装置等の施設）

3. 電源の接続とアース（接地） ………

⚠ 警 告

- アース（接地）線をガス管に取付けると爆発のおそれがありますので、絶対にしないでください。

電源プラグとコードの接続は次のようにしてください。

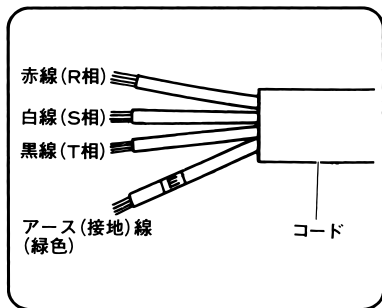


図 7

(1) コードの「アース」または、「E」と表示してある緑色の線を電源のアース（接地）に接続してください。

(2) コードの赤線がR相、白線がS相、黒線がT相となるように電源に接続してください。

(3) アース（接地）線（緑色）は念のために断線、接続不良がないことを確認してからご使用ください。なお、テスターや絶縁抵抗計をお持ちでしたら、アース（接地）極の刃と本機金属枠との間の導通を確認してください。

4. 継ぎ（延長）コード ………

⚠ 警 告

- 継ぎ（延長）コードは、損傷のないものを使用してください。

電源の位置がはなれていて継ぎ（延長）コードが必要なときは、製品を最高の能率で故障なくご使用いただくため、電流を流すのに十分な太さのものをできるだけ短くしてご使用ください。

| 心線断面積 | 最大長さ |
|----------------------|------|
| 1. 25mm ² | 15m |
| 2 mm ² | 25m |

左の表は、コードの太さ（心線断面積）によって、本機に使用できるコードの最大長さを示します。

これ以上長いコードを使用すると、電流が十分流れず製品の能率が落ち、故障の原因になります。

継ぎ(延長)コードは必ずアース(接地)できるアース(接地)用の1心をもつ4心キャブタイヤケーブルをお使いください。

5. すえ付け後の掃除 ………

本機は掃除をして出荷いたしておりますが、輸送時にほこり、ごみなどでよごれることがあります。すえ付けをしたら機械の掃除をしてください。

掃除のしかたについては、16ページ「掃除・点検」の項を参照してください。

○騒音防止規制について

騒音に関しては、法令や各都道府県などの条例で定める規制があります。

ご近所に迷惑をかけないように、規制値以下でご使用になることが必要です。状況に応じ、しゃ音壁を設けて作業してください。

ご使用前に

△ 警 告

- ご使用前に次のことを確認してください。1～5項は、コードを電源に接続する前に確認してください。

1. 使用電源を確かめる ……………

必ず銘板に表示してある電圧でご使用ください。表示を超える電圧で使用するとモーターや制御装置が破損するおそれがあります。

また、直流電源、エンジン発電機、昇圧器などのトランス類で使用しないでください。製品が故障するだけでなく、事故の**原因**になります。

2. 電源スイッチが切れていることを確かめる ……………

電源スイッチが入っているのを知らずに元電源を入れると不意に起動し思わぬ事故の**原因**になります。

電源スイッチはレバーを「入」側に倒すと入り、「切」側に倒すと切れます。

電源スイッチのレバーが「切」側になっていることを必ず確認してください。

3. 各部とねじ類の締付けを確かめる ……………

機械各部の名称と本体を照合し、取付け部品を確認し、念のため各部のねじ類の締付けを確認してください。

4. セフティガードを確かめる ……………

セフティガード(図1-イ、図2-イ参照)が確実に取付けてあることを確認してください。セフティガードをはずしたまま作業すると、けがの**原因**になります。

5. 機体を点検する ……………

ニクザラに工具類、ほう丁、やすり、ふきんなどを置いていないか点検してください。置き忘れますと内部のスクリュに巻き込まれ、機体の破損や思わぬ事故のもとになりますのでご注意ください。

6. 電源コンセントを確かめる ……………

電源プラグを差し込んだとき、ガタガタだったり、すぐ抜けるようであれば、修理が必要です。お近くの電気工事店などにご相談ください。

そのままお使いになりますと、過熱して事故の**原因**になります。

7. 回転方向を確かめる ……………

- **注** 逆回転を続けると、角ネジ（図5参照）がゆるみ破損するおそれがあります。直ちに停止スイッチを押し運転を停止してください。
- 空運転を行うときは、ワッパを手で軽く締め、次に1/4回転ゆるめてください。ワッパを強く締めるとプレートとナイフの接触面に傷がついたり、焼付きを起こす原因となります。
- 空運転は数秒間にしてください。長く運転をするとプレートとナイフの接触面に傷がついたり、焼付きの原因となります。

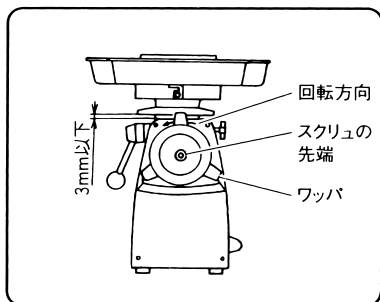


図 8

電源スイッチのレバーを「入」側にし、運転スイッチを押すとスクリュウ、ナイフが回転します。スクリュウの先端が図8の矢印の方向（反時計方向）に回転するのが正常です。LCM22(S)の場合、運転スイッチ以外にフットスイッチでもスクリュウ、ナイフの回転、停止ができます。もし逆回転する場合は、電源スイッチのレバーを「切」側にし、コードの赤線（R相）と黒線（T相）をつなぎかえてください。

操作の手順

⚠ 警告

- 作業終了後は必ず電源スイッチを切り、元電源も切ってください。
- ホッパを本体から取りはずした状態で運転操作しないでください。
- 肉をホッパ内に入れるときは、必ずツキボウで押し込んでください。手などで押し込むと、内部のスクリュウに巻き込まれてけがの原因になります。

- **注** ホッパは本体に確実に取付けてください。ホッパの取付けが確実にないと（図8参照）運転スイッチを押しても運転できません。

1. 電源スイッチを入れる ……………

電源スイッチのレバー（図9参照）を「入」側にすると、電源ランプが点灯し、運転できる状態になります。レバーを「切」側にすると電源ランプが消え電源が切れます。

2. 運転スイッチ ………

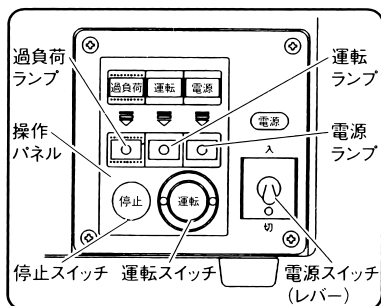


図 9

運転スイッチを押すと、運転ランプが点灯しスクリュ、ナイフが回転します。

停止スイッチを押すと運転ランプが消え、スクリュ、ナイフが停止します。

運転中、何か異常が発生した場合は、直ちに停止スイッチを押し、電源スイッチを切ってください。

3. フットスイッチ ……… LCM22(S)の場合

フットスイッチ(図2-イ)を踏むと運転ランプが点灯しスクリュ、ナイフが回転します。もう一度フットスイッチを踏むと運転ランプが消えスクリュ、ナイフが停止します。このように、フットスイッチは、踏むごとに運転、停止が切り替わります。また、操作パネルにある運転、停止スイッチも使用できます。

注 ●フットスイッチは、カチッと音がするまで踏み込んでください。踏み込みが浅かったり、早く操作すると、運転、停止できません。

●運転中、何か異常が発生した場合は、操作パネルの停止スイッチを押すか、フットスイッチを踏んで停止して電源スイッチを切ってください。

4. 肉の挽きかた ………

注 ●ワッパを取付けるときは、はじめ軽く締めて少量の脂身(脂肪)を挽きながらワッパを締付けてください。はじめから強く締付けると、プレートとナイフの接触面に傷がついたり、焼付きを起す原因になります。

●肉の出かたが悪くなった場合は、肉の筋などがナイフにからみついていることがあります。この場合、電源スイッチを切り、元電源も切ってスクリュ、ナイフが停止してからワッパをはずしてプレート、ナイフを掃除してください。

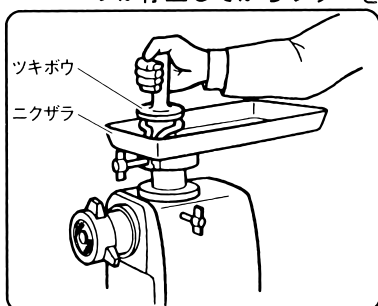


図 10

ニクザラの肉は、ツキボウでホッパ内に押し込みます。

肉はホッパの中に入る程度(約35mm角以下)の大きさにしてください。

刃物の交換

⚠ 警 告

- 刃物の交換の際は、必ず電源スイッチを切り、元電源も切ってください。

ミートチョッパーの生命は、刃物（ナイフ・プレート）の切れ味です。常に手入れし、清潔に保ってください。

刃物の交換は、下記の時期を一つの目安にしてください。

- (1) 挽き肉が白く練れたようになる。
- (2) ナイフのまわりに筋が多く残るようになる。

このような状態で使用を続けるとナイフの刃先にバリが出たり、欠けたりして切れ味が悪くなります。さらに、プレートも異常磨耗を起こしてモーターに無理がかかり、焼損の原因になりますので、早めにお買い上げの販売店にご相談ください。

過負荷保護装置について

⚠ 警 告

- 過負荷保護装置が働き過負荷ランプが点灯したときは、必ず停止スイッチを押し、電源スイッチを切り、元電源も切ってください。

固い冷凍肉、大きい牛筋、異物などを押し込むと、モーターに無理な力が加わりモーターに内蔵されている過負荷保護装置が働き、過負荷ランプが点灯し、モーターが停止します。

過負荷保護装置は、自動的に解除しますが解除するまでの 30 分間は運転スイッチを押しても運転できません。これは故障ではありません。電源スイッチのレバーを「入」側にしたとき、過負荷ランプが消えたことを確認し作業を続けてください。

過負荷保護装置が働く原因と対策

| No. 原因 | 対策 |
|------------------|----------------------|
| 1 固い冷凍肉を挽いた。 | 解凍（零下 8℃より高く）してください。 |
| 2 大きい牛筋を無理に押込んだ。 | 筋を切り、小さくして入れてください。 |
| 3 ナイフの切れ味低下。 | 「刃物の交換」の項を参照。 |
| 4 異常に固いものを挽いた。 | 各種肉類以外の物を挽かないでください。 |
| 5 モーターの故障。 | 販売店に修理を依頼してください。 |

原因不明の場合は、お買い上げの販売店にご相談ください。

掃 除 ・ 点 検

⚠ 警 告

- 掃除・点検の際は必ず電源スイッチを切り、元電源も切ってください。
- 機械には絶対水をかけないでください。水がかかると漏電や感電するおそれがあります。掃除の時は、布などでふきとるようにしてください。

ミートチョッパーは、食品を扱う機械ですので衛生には十分気をつけ、必ず掃除をして清潔にしておいてください。掃除の際には機械を分解します。分解は次の(1)～(4)の手順で行ってください。分解した部品は、お湯または水で丸洗いできます。組立は、分解の逆の順です。掃除後は、各部品を所定の位置に確実に取付け、しっかりとねじ類を締付けてください。

- 注**
- ワッパの内側ねじ部に付着した肉くずは特に除去してください。肉くずが固まってワッパがバレルに取付けにくくなります。
 - 掃除後は必ず水気をふきとってください。そのまま放置しておくとしびが発生する原因になります。特にプレート、ナイフには、食用油を薄く塗布してください。

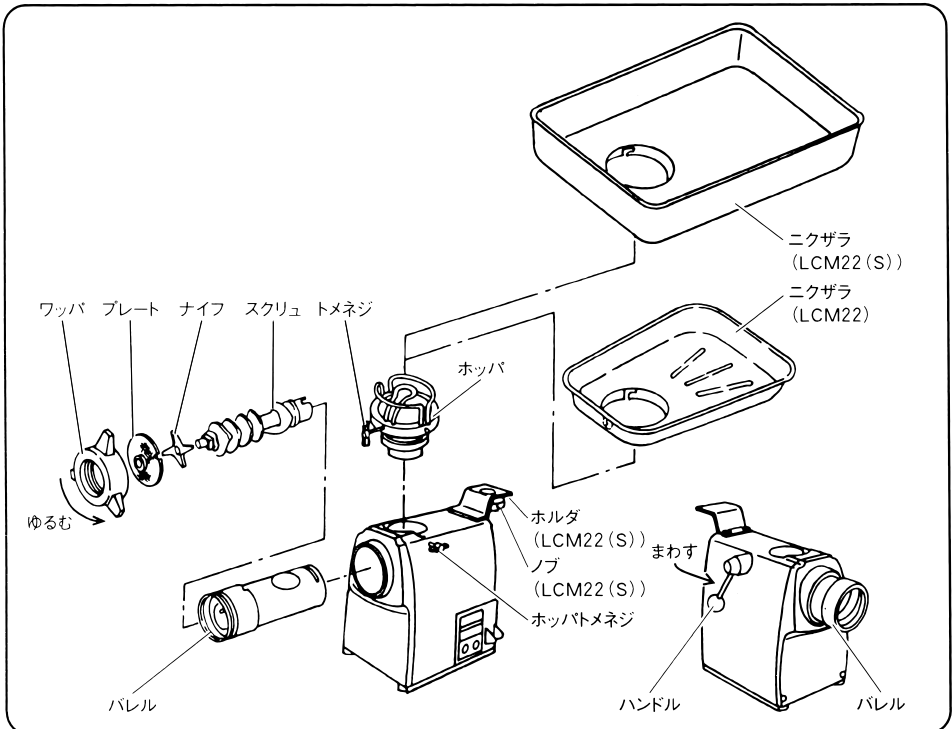


図 11

- (1) ワッパを左（矢印方向）にまわして取りはずし、プレート、ナイフ、スクリュを取り出します。
- (2) ハンドルを矢印方向にまわし、バレルを抜き取ります。
- (3) トメネジをゆるめ、ニクザラをはずします。
LCM22(S)の場合は、トメネジとノブをゆるめてからニクザラをはずします。
- (4) ハウジングのホップトメネジをゆるめ、ホッパを抜き取ります。

メ 毛

ご修理のときは

本機は、厳密な精度で製造されています。したがって、もし正常に作動しなくなったような場合には、決してご自分で修理をなさらないで買い上げの販売店にご用命ください。

その他、部品ご購入の場合や取扱い上でお困りの点がありましたら、ご遠慮なくお問い合わせください。

※（外観などの一部を変更している場合があります。）

お客様メモ

お買い上げの際、販売店名・製品に表示されている製造番号 (NO.) などを下欄にメモしておくと、修理を依頼されるとき便利です。

| | | | | |
|-----------|---|---|---|------------|
| お買い上げ日 | 年 | 月 | 日 | 製造番号 (NO.) |
| 販売店 (TEL) | | | | |

製造元 **工機ホールディングス株式会社**

代理店